



「僕の作品、見てください！」

先日、作家の山本悦子さんをお招きし、「身近なところから物語をつくろう」というワークショップを行いました。

その日の子どもたちは、朝からドキドキ、ワクワクした様子でした。私たち教員がラーニングコモンズで会場の準備をしていると、「先生、手伝います！」「何をすればいいですか」と何人もの子が声をかけてくれて、一緒に会場をつくってくれました。

ある子は緊張した面持ちで、「今日は楽しみにしていました。来てくださってありがとうございます」と、自分から挨拶をしに行っていました。あこがれの作家さんを前にした、尊敬のまなざしが印象的でした。

ワークショップが始まると、「僕の作品、見てください！」「私のはどうですか」と、ひっきりなしに山本さんのもとへ。その都度、「とってもいいアイデアだね」「もっとここをつなげると面白いよ」と声をかけていただきました。

いきいきしたお話になる3つのひけつ

せっかくの機会ですので、山本さんが教えてくださったことを共有します。

- 1 主人公の気持ちになって考えよう
- 2 「」会話文を必ず入れよう
- 3 最後まで書こう

この3つを意識しながら、「もっと面白くならないか」と何度も考えて書き直していく。そうすると物語はよくなっていくそうです。

また、物語の基本の形についても教えていただきました。
特徴のある主人公が、ある願いを叶えるために、お助けキャラの力を借りながら事件を乗り越え、その願いを叶える。

これが物語の骨組みだそうです。終わりの発表タイムと感想発表では、たくさんの子が目を輝かせて「はい！」と手を挙げていました。それだけ、魅力的な会だったということだと思います。



朝から準備を手伝う子どもたち



朝から会場づくり



発表したいです！！と手を挙げる様子

いただいたお言葉

ワークショップのあと、山本さんとお話ししていると、こんな言葉をいただきました。

「SOLANの子どもたちは、本当に物おじせずに自分の意見を発表できて素敵ですね」

「創造力のある子どもたちが、たくさん育っていますね」

「文章力のある子も多いですね」

2年生の担任として、子どもたちを褒めていただいたことを大変うれしく思います。これは、日々の日記の取り組みなど、ご家庭でのご協力の賜物です。ありがとうございます。

今回の学びを活かして、これからSOLANを紹介するお話を創っていきます。できあがった作品は、プリスクールの子どもたちや、来年度の新1年生に届ける予定です。

ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。



いただいたサイン本を手にする子どもたち



お話を考える様子



先生、見てください！



一緒に給食を食べて歓談



先生、見てください！



写真撮ってください！